

神ノ西

こののさい



十和・大正方面から国道381号を走り、いよいよ窪川の街中に入ろうかという辺りで四万十川を渡る。最初の信号の手前を左折（北進）して間もなくすると、神ノ西である。



石包丁などの出土品

を心がけ、各々の都合、また喜びや悲しみをできる限り共有しようというのが、地区住民が大切にしてきた考え方。住民が協働して行う地区の行事も

土佐の地域史や地理、風俗、宗教などをまとめた「南路志」という江戸後期の資料がある。この南路志には「神崎（かみのさき／かんざき）村」とある。神ノ西、神崎いずれにもある「神」の文字は、五社さんを指す。戦国期の地帳によれば「コウノサイ」という小字名が記されており、後年これももって村名としたと思われる。

現在の集落と田畑は、江戸時代に開墾された新田であるが、四万十川の川岸辺りには、太古の昔・弥生時代の集落があったとされる。神西遺跡である。昭和25年に発見され、発掘調査をした結果、弥生中期のものとみられる土器や石包丁などが相次いで出土。また、弥生後期の「貯蔵穴」の遺構がいくつか発見され、そこから、この地方に多く出土している形態の土器が見つかっている。遺跡の規模は、南北300メートル、東西150メートルに及ぶ。

強制はしない。「出られる人が出る。出られなかったらまた今度（笑）」各々の都合や個人の考え方を尊重し、無理に「地区の意志」を押し付けられない事も申し合わせてきた。かといって決してバラバラではない。個を大切にすることこそ、各々が助け合うという気持ちが自然に生まれるのだという。

ところで、幕末にこの地に生きた男衆（＝男性の奉公人）で、面白い人がいた。「万六」という、実にとんちの利いた人物で、主人の言いつけも小言も、ひたすらとんちで切り返し、その憎めないキャラクターは旧窪川の街中でも有名だったという。地区には、その万六さんのお墓があるのだが、当時の人々が「彼らしいお墓にしよう」と考えたのであろう、一風変わったお墓に万六さんは眠っている。



万六さんのお墓

(7月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,616	-9	男 5	15	11	10
女	9,623	-21	女 4	17	16	24
計	18,239	-30	計 9	32	27	34
世帯数	8,669	-2	(7月中の届出)			

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	8月10日
リン酸	≤ 5.0	0.121
硝酸	≤ 0.5	0.309
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.250
化学的酸素要求量	≤ 10.0	3.464

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)